

13. 尚綱の森の自然

[資料] ゆりが丘 (旧イトーピア名取) 住宅開発計画 (株オオバ 1983 制作・尚綱学院所蔵) より抜粋編集

環境保全目標

開発地域は、名取平野を囲む丘陵地であり、落葉広葉樹に覆われたいわゆる農村地帯の里山である。このような地域であることを踏まえ、本地域における植物にかかわる環境保全目標は以下の設定項目とする。

環境保全目標

- ① 重要な植物群落の保全
- ② 重要な植物種の保全
- ③ 重要な動物の棲息場所等の保全
- ④ 生活環境としての緑の保全
- ⑤ 景観としての緑の保全
- ⑥ 信仰対象の構成要素としての緑の保全

上記、①～⑥の各号に掲げた項目について、以下に詳述する。

(1) 重要な植物群落の保全

本地域及び周辺地域の重要な植物群落は、1 現況において法律によるもの、学術的なものなどの項目にわけ、下表のものをとりあげた。

表 4-9-11 開発地域及び周辺地域の重要な植物群落

名 称	場 所	内 容
高館・千貫山県自然環境保全地域	周 辺	県指定自然環境保全地域
霊屋のスギ	周 辺	特定植物群落
東北大学のモミ林		
佐保山のモミ・イヌブナ林		
仙台鳥獣保護区	周 辺	青葉山付近特別保護地区あり
コナラ群落等の落葉広葉樹林	地 域 内	各種機能が高いと考えられる群落
ケヤキ群落		
オニグルミ群落		

このうち、本地域周辺の霊屋のスギ、東北大学のモミ林、佐保山のモミ・イヌブナ林、仙台鳥獣保護区(青葉山付近特別保護地区を含む)については、開発による影響はほとんど考えられないので、保全目標の設定内容からはずした。

①高館・千貫山県自然環境保全地域

高館・千貫山県自然環境保全地域は本地域の南側に隣接して指定されており、生存する動植物を含む自然環境が勝れた状態を維持している地域として保全されることになっている。これに対応して開発に当って、高館・千貫山県自然環境保全地域への影響がないように配慮するとともに、これとの調和を図るため従来の自然を活かした緑地をつくる。

②コナラ群落等の落葉広葉樹林

本地域のコナラ群落等の落葉広葉樹林は、表 4-9-8 に示す各種機能を果していると考えられる。開発に当っては、これらの機能と環境の状態を十分に検討し、機能低下等の影響を最小限にとどめる。

③ケヤキ群落・オニグルミ群落

本地域のケヤキ群落・オニグルミ群落は、法的な指定にも、一般に広く認められている学術的に貴重な植物群落にもあてはまらないが、地域的に見て特に自然性が高い植物群落である。また、これらの群落は宮城県内でも減少しつつある群落であり、できるかぎり保全する。

(2) 重要な植物種の保全

本地域では下表に挙げる重要種が確認されている。

表 4-9-12 開発地域内の重要な植物種

種 名	種 の 形 状 等
ナンブワチガイソウ	多年草 高さ15~20cm
オヤリハグマ	多年草 高さ45~85cm
トウゴクミツバツツジ	落葉低木 高さ 2~ 4m
ヤマコウバシ	大型落葉低木

宮城県内の丘陵地が近年急速に開発され、特に自然度6以上の森林群落が地形の改変とともに減ってきており、これらの森林に分布する貴重種の減少も目立っている。したがって、本地域の重要種の殆どが自然性の高い植物群落の中に生育している低木或いは草本植物であることに留意して、できるかぎりこれらの植物種の保全を図る。

(3) 重要な動物の棲息場所等の保全

本地域では、下表に挙げる動物種が重要種として確認されている。

表 4-9-13 開発地域内の重要な動物種

類 名	種 名
哺乳動物類	ニホンアナグマ、ホンドテン、ホンドタヌキ、トウホクノウサギ
鳥 類	アオバト、ツツドリ、フクロウ、ヨルリ、キビタキ、オオルリ、アオゲラ、クロツグミ、ヤマガラ、ヤマドリ
爬虫類・両生類	クロサンショウウオ、カジカガエル
淡水魚類	ギンブナ
昆 虫 類	オオムラサキ、マガタマハンミョウ、キバネセセリ、スミナガシ、テングチョウ、オオヒカゲ、ウラギンシジミ、フタイロコヤガ

自然状態では動物種は生態系の一員として生存しており、ここでは動物種にとって第1次生産者である植物はもとより、棲息場所である植物群落の存在は不可欠なものである。したがって、個々の動物種の棲息環境及び食物連鎖等に充分留意して、動物種にかかわる植物種、植物群落の保全を図る。

(4) 生活環境としての緑の保全

本地域は将来、住宅地・学校用地として利用されるため、できるかぎり快適性、安全性、便宜性等を因ることが望ましい。植物・動物といった自然環境はとりいれ方により快適性を増すものである。特に青少年にとっての自然の鑑賞或いは物動植物との出会いは、情緒的発達に大きな影響を与えられている。大人にとっても、精神衛生・保健休養といった面での効用は大きい。こういった快適性を高めることは、住宅地・学校用地としての付加価値を高めることであり、住宅地・学校用地の条件の一つであると言える。したがって本地域にも、より勝れた自然をとりいれて日常生活の中で気軽に触れることのできる生活環境としての緑地を保全する。

(5) 景観としての緑の保全

本地域及び周辺地域は、名取川を挟んで仙台市に近接する丘陵地の一面であり、北側から東側にかけての平坦地には畑、水田が広がり、所々に集落が点在する古くからの農村地帯である。開発に当っては、周辺地域との調和を図るため農村的風景の主体ともなっているコナラ群落等に覆われた里山を地形も含めて保全する。

また、本地域が平野に接する丘陵地であるという特性を活かして、地域内における眺望点の確保と眺望点の利用のため周辺環境としての緑地を保全する。

(6) 歴史的象徴の構成要素としての緑の保全

本地域及び周辺地域は、那智神社を始めとして古くから信仰の対象の山となっているところが多く、本地域北端部の平野に面する斜面の落葉広葉樹林の中には、しめなわがまわしてあるアカマツの巨木(樹高9.0m 胸高幹周*252cm)があり、その脇に小さなほこらが奉つてある。このような信仰では、植物が重要な構成

要素となっており、住民等の意見に留意して地形を含む植物群落及びアカマツの巨木の保全を図る。

*胸高幹周：根ざわから垂直方向に130cmの高さの樹の幹の周囲の長さ

環境保全対策

本項では、環境保全目標を踏まえ環境保全対策の検討を行った。

(1) 重要な植物群落の保全対策

環境保全目録では、隣接する①高館・千貫山県自然環境保全地域への配慮、②コナラ群落等の落葉広葉樹林のもつ各種機能への影響の最小化、③ケヤキ群落・オニグルミ群落といった地域的に見て自然性が高い植物群落の保全をとりあげた。

これらをできるだけ達成するための保全対策の方法を以下に述べる。

① 高館・千貫山県自然環境保全地域への配慮

a. 自然法面（のりめん）*の導入

高館・千貫山県自然環境保全地域は、宮城県の丘陵地の代表的な自然として比較的良好な状態を維持していることが指定の対象となっているが、将来、周辺の開発により自然が孤立した形で残ってしまう可能性が充分にある。このため周辺部の開発では、できるだけ地形的改変を抑え、自然法面を取入れて調和を図ることが望ましい。

自然法面の導入では、特に達成時の盛土・切土に充分注意する必要があり、斜面上部での土の移動では、自然法面に土が被らないようにすることが大切である。植物は地下に根をはっており、林下に大量に流れこんだ場合、水分条件、通気等が悪化し枯死することが多い。植物の枯死は法面の不安定化にも繋がるので極力避ける。

*法面（のりめん）：「斜面」の意、土木建設用語

b. 在来種の利用

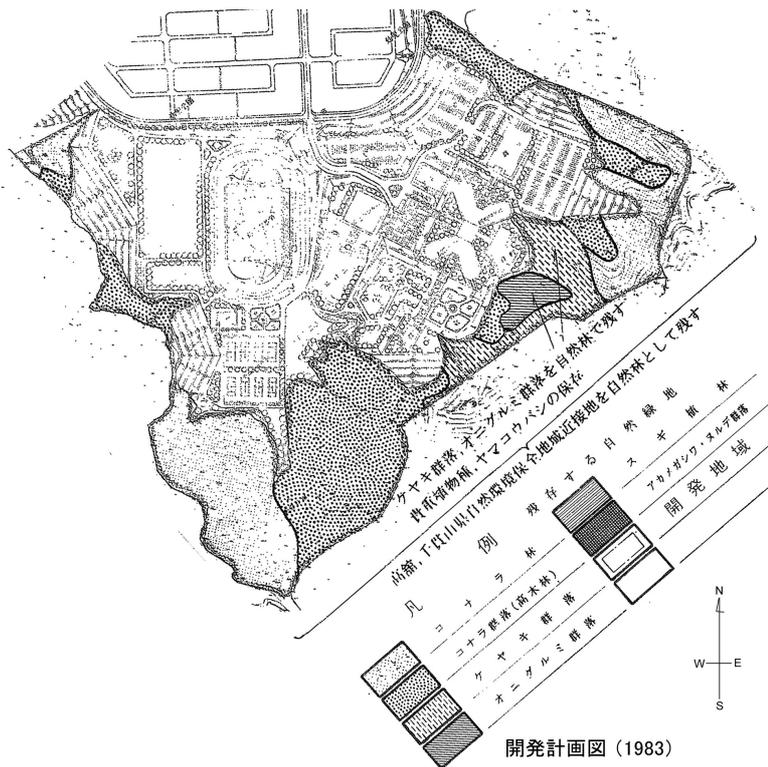
高館・千貫山県自然環境保全地域は、当地方の勝れた自然林であることが指定の基盤としてあるため、隣接する本地域では植栽に当っては、在来種以外で植栽場所から逸出して繁殖する可能性のある樹種・草本による緑化は避け、当地方の風土に合った在来種をできるだけ用いる。また、自然林的植栽には在来種を利用すれば天然更新も可能となる。現況により確認された樹種で植栽木として利用可能なものを次表に挙げる。

表 4-9-14 開発地域で確認された植物種（自生しているもの）で植栽木として利用可能なもの

樹性	樹種
中	針葉樹 モミ、アカマツ
高木	常緑広葉樹 イヌツゲ、ヤブツバキ
	落葉広葉樹 エゴノキ、クヌギ、コナラ、リョウブ、ヤマボウシ、トチノキ、ケヤキ、イヌシデ
低木	常緑広葉樹 イヌツゲ、ヤブツバキ
	落葉広葉樹 ヤマツツジ、ニシギギ、マンサク、ムラサキシキブ、レンゲツツジ、ヤマブキ

② コナラ群落等の落葉広葉樹林のもつ各機能への影響の最小化

植生のもつ機能は、その土地利用によって大きく変化するので、開発によって特に問題となるのは本地域が現在、農村地帯の里山であること、将来、住宅地・学校用地になることを考



慮すると、各機能の内、A.レクリエーション機能、B.自然保護機能、C.史跡文化財保全機能、D.生活環境保全機能が中心となる。更に機能によって、その植物群落の取扱いは、a.そのままの形で保存する b.人為を加えて多少変化させる c.人為を加えて新たに作る 等の段階的な方法をとることが望ましい。

例えば、住宅地の中の児童公園では、c.人為を加えてまったく変化させ、新たに植栽を施すことにより快適な利用ができるが、重要な動植物種等を保護したい場合には、a.そのままの形で保存し、植物群落を維持していかなければならないことが多いことである。

そして緑地として、面積、形状、樹林の構造等の形態も機能にできるだけ合わせることを望ましい。

③ ケヤキ群落・オニグルミ群落といった地域的に見て自然性が高い植物群落の保全

植物群落はその立地条件（気候、水分、日照等）に合わせて成立し、群落の構成種は、高木層、亜高木層、低木層、草本層といった垂直構造をつくりだし、互いに依存しながら平面的な広がりを見せている。

学術的希少価値を問う場合・単に高木層の優占種、例えばケヤキとかオニグルミといったものに重点が置かれるのではなく、構成種や階層構造も含まれる。

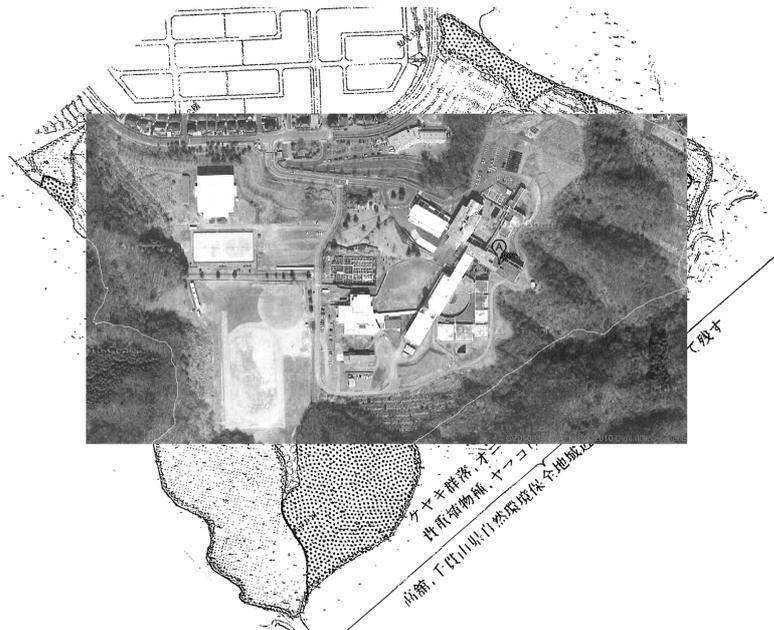
植生を一度破壊すると、植物は自然に生育し、再び森林に戻るという遷移を繰り返すが、必ずしも同一の構成種、構造をもつものに戻るとは限らない。特にケヤキ群落・オニグルミ群落は、一度破壊されると戻りにくい群落であると言われている。

したがって、検討の上保全の必要がある場合には、地形も含めてそのままの状態を保存することが最善の方法である。この場合、森林内の環境を保全するために、周囲に緩衝地帯を設けることが必要である。

(2) 重要な植物種の保全対策

本地域で確認された重要種の生育環境は下表のとおりである。

植物種はそれぞれの生育している植物群落の中で繁殖を繰り返す、種の分布を維持しているため、種の保存にはそれを含む植物群落を保存することが良い方法である。



しかしながら、個体を同一の環境条件下に移植して保存することも可能である。

表 4-9-15 重要種の生育環境

種名	生育環境
ナンブワチガイソウ	落葉広葉樹林の林床
オヤリハグマ	明るい落葉広葉樹林の林床
トウゴクミツバツツジ	やや乾燥した斜面上部の落葉広葉樹林の林中
ヤマコウバシ	ケヤキ群落と一部のコナラ群落の中

オヤリハグマ、トウゴクミツバツツジについては、本地域内に自然緑地を確保することによってそこに移植或いはすでにそこに生育している可能性も充分あるので保存できる。

ナンブワチガイソウについては、個体が極めて少なく、生育個体を探しだすことが困難であり、対策を立てることは不可能である。

ヤマコウバシについては、南東斜面のケヤキ群落及びコナラ群落で生育している。いずれも林床のすいた樹高の高い林である。このような環境があれば移植により保存できる。

(3) 重要な動物の棲息場所等の保全対策

これについては動物編で述べる。

(4) 生活環境としての緑の保全対策

本地域は丘陵地であるため法面が多くなるが、将来的に住宅地・学校用地となるため、できるだけ樹林に覆われた斜面にすることが望ましい。

そのため、法面に植穴を掘り、主に木本を植付ける植栽工事により、早期の緑化を図ることが望まれる。

(5) 景観としての緑の保全対策

対策としては(4)に準じる。植栽樹種としては周辺の樹林の構成種とする。植栽材料の確保としては本地域の造成面上の樹木を造成前にあらかじめ他の場所へ移してそれを利用する方法もある。

(6) 歴史的象徴の構成要素としての緑の保全対策

本地域北端部の平野に面する斜面に位置するほこらの周辺の地形・植生を保存する。

予測

予測対象区域は、現況調査区域のうち、貴重な植生或いは自然状態が比較的良く保存されている植生等の保全対象があると判明した区域が該当するが、本地域の植生はコナラ、クリを主

体とし、ケヤキ群落、オニグルミ群落、スギ植林、ススキ草原等からなり、これらは宮城県の丘陵地において普通に見られるもので、特に貴重なものではない。

したがって予測は、2 環境保全目標で掲げた六つの項目について行い、予測範囲は本地域内とする。また、予測方法は、切土・盛土が実施される範囲と環境保全目標に掲げた植物種及び植物群落の位置等を対照することによって行い、それらの植物の消滅の有無や改変の程度を予測する。

(1) 重要な植物群落

①高館・千貫山自然環境保全地域

本地域内に自然林をできる限り取り入れることにより調和を図れば影響は殆どない。また、緑地の造成に当っては本地域の出現種をできる限り用いることにより影響はない。

②コナラ群落等の落葉広葉樹林

自然法面を導入していくことによりコナラ群落等の落葉広葉樹林は残る。

③ケヤキ群落・オニグルミ群落

本地域内南部の地形と植生を保存すれば影響は少ない。

(2) 重要な植物種

オヤリハグマ、トウゴクミツバツツジについては、本地域中央部の法面を自然法面として導入すれば、移植等の方法により保存できる。

ヤマコウバシについては、南部の樹林が保全されれば保存できる。

ナンブワチガイソウについては保存不可能と考えられる。

(3) 重要な動物の棲息場所 これについては動物編で述べる。

(4) 生活環境としての緑

適切な斜面の緑化等により生活環境としての緑は確保される。

(5) 景観としての緑

これについては景観編で述べる。

(6) 歴史的象徴の構成要素としての緑

ほこら周辺の地形と植生を残すことにより、歴史的象徴の構成要素としての緑は保全される。

評価

環境保全目標を満足するか否かを基準とし予測結果を踏まえ評価する。

(1) 重要な植物群落

①高館・千貫山自然環境保全地域

調和を図ることにより影響はない。

②コナラ群落等の落葉広葉樹林

地域内に自然法面を導入し、造成法面についても植栽工を施すことに影響はない。

③ケヤキ群落・オニグルミ群落

形を含めて植生を保存し、緩衝地帯を設ければ影響はない。

(2) 重要な植物種

オヤリハグマ、トウゴクミツバツツジについては、保存可能なので影響はない。

ヤマコウバシについては、隣接する高館・千貫山自然環境保全地域にも出現するので、本地域内で保存できなくとも影響は少ないと考えられる。

ナンブワチガイソウについては、対策を講じることが困難であり、開発による影響だけではないので評価は不可能である。

(3) 重要な動物の棲息場所等 これについては動物編で述べる。

(4) 生活環境としての緑 法面の緑化等により影響は少ない。

(5) 歴史的象徴の構成要素としての緑

地形も含めた植生の保存を図ることにより影響は少ない。

高館・千貫山緑地環境保全地域

(宮城県 HP より)

1. 地域の概要

この地域は仙台平野の南西部に位置し、北は高館山から南は阿武隈川に面する千貫山まで、幅約5kmで南北に細長く連なる高館丘陵のうち、県自然環境保全地域に指定されている樽水・五社山地域を除いた残りの地域となっています。

高館丘陵は、広義の仙台平野における代表的な丘陵の一つで、基盤は、主に数百万年前の火山岩、火砕岩と花崗岩類から成っています。こうした硬い岩石が多いので、長い年月の間にもあまり侵食されず、緩やかな丘陵として残ったのです。

地域内には古くからの寺社・仏閣や遺跡など歴史を感じさせるものが多く、それが豊かな自然の中にほどよく溶け込んで、古代のロマンを訪れる人の心に静かに語りかけてくれます。

2. 高館・千貫山のいきものたち

植生は、コナラ・クリの二次林とスギ植林、アカマツ植林が高い占有率を示しています。動物は、トウホクノウサギ、ニホンリス、ホンドタヌキ、ホンドイタチなど県内の丘陵地に普通の種類が多く、鳥類はサンコウチョウ、ノスリ、フクロウ、アカゲラなどが認められています。また、この地域では国蝶のオオムラサキの姿も見られます。オオムラサキの幼虫はエノキの葉を食べ、成虫になるとクヌギ、コナラ、ヤナギ類の樹液を吸います。

コナラ・クリ林やクヌギ林がある所では、セセリチョウやヒカゲチョウ、シジミチョウの仲間が多く認められます。また、こうした林の中には、カブトムシ、ミヤマクワガタ、カナブン、アオオサムシなども生息しています。

3. 里山の野鳥

コナラ・クリ林、アカマツ林、スギ林が点在する中に沼や溜池があると、数多くの野鳥が集まってきます。オナガ、ホオジロ、モズ、ヤマドリ、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイスなどの留鳥の他に、夏には夏鳥のホトトギス、カッコウ、オオルリなど、冬にはツグミ、シメ、ベニマシコ、マヒワなどを見ることができます。



766. オオムラサキ *Sasakia charonda* Hewitson [タテハチョウ科]
前翅長50~55mm。オスの翅表は前後翅共基部から中央にかけて全面が濃い紫色、その外側を幅広く黒色で囲む。中央の紋列は白色でその周囲は黄色。メスは大型で紫色部がなく、地色は黒褐色。裏面は前翅前半と後翅が濃い黄色(白色のものもある)。日本産最大のタテハで国蝶に指定されている。〔食草〕エノキ。〔分布〕北海道・本州・四国・九州；朝鮮・中国・台湾。〔出現期〕6月~7月に発生。



373. ナンブワチガイ [希少種]〔なでしこ科〕
Pseudostellaria japonica (Korsh.) Pax
本州北部に産し、中国東北部に分布する多年生草本である。根は無柄で対生し、下部の葉は細く皮針形であるが、上部の葉は卵形で尖り、長さ1.5~4cm、幅6~22mm、毛が散生し、特にふちや下面の脈上では長い毛が目立つ。春、茎頂または上部の葉腋から細い有毛の長さ1.5cmぐらゐの花梗を出し、白花をつける。がく片は4~5個、長さ3~4mm。花弁も4~5個、倒卵形、白色で、長さ4~6mmある。雄しべは8~10個。花柱は2個。茎の下部の葉腋には閉鎖花をつける。〔日本名〕南部ワチガイ。岩手県の南部という地名に基づいて名づけられた。



500. ヤマコウバシ [希少種]〔くすのき科〕
Lindera glauca (Sieb. et Zucc.) Blume
各地の山地にはえる落葉低木。高さは5mになり、幹は直立して分枝し、樹皮は茶灰色、枝は硬くてもろい。葉には柄があり、互生し、長楕円形あるいは長楕円状倒卵形で、両端は尖り、裏面は緑白色で軟毛がある。春、新芽とともにその葉の腋に柄のある散形花序をつけ、淡黄緑色の小さい花が数個かたまって開く。雌雄異株である。花被は6裂し、花被片は楕円形、長さは1.5mmぐらゐである。雄しべは9個で、外側の輪に6個、内側の輪に3個あり、内側の雄しべはそれぞれ腺体を2個ずつそなえている。花柄は長さが5mmぐらゐで、軟毛ははえている。10月頃、果実が熟して黒くなり、直径は7mmぐらゐで、多少辛味がある。冬でもなお枯れた葉は落ちずに枝につき、翌春になってようやく落ちる。〔日本名〕山香しの意味であらう。枝を折ると多少香気があるからこのように言うのだと思う。〔漢名〕山胡椒は本種ではない。



2143. トウゴクミツバツツジ [希少種]〔つじ科〕
Rhododendron wadanum Makino
本州中部の山地に普通に見られる落葉低木で、高さは2~3m、多くの枝にわかれ、冬芽のりん片は褐色の毛でおおわれる。葉は枝の先に3個輪生し、ひし形状広卵形で、長さは5~8cm。葉先は短かく鋭形、基部は幅広いくさび形で、全縁、新葉の時は黄褐色の長い毛が密にはえている。生長後もおお表面に多く褐色の毛を残し、葉柄および中央脈裏面には白毛が密にはえ、乾けば淡褐色に染る。5月、葉が開く前に多数の紫色の花を横向きに開く。がくは皿状で鈍き上歯をもち、花柄とともに細毛がある。花冠は径3~4cm、深く5裂してはほぼ平らに開き、裂片は広い楕円形で先は鈍円形。筒部は短かく上面に濃紫色のほん点がある。雄しべは10本あり長さは不同で、外側のものは先端が上に向く。子房には白毛が密にはえ、花柱は細長く下部に細い腺毛がある。さく果は卵状長楕円形で、普通弓形に曲り表面に細毛があり、5片に裂開して種子を出す。まれに白い花をつけるものもあり、シロバナトウゴクミツバツツジという。〔日本名〕東国三葉ツツジで主として関東の山地に多いので名づけられた。



2941. オヤリハグマ [希少種]〔きく科〕
Pertya triloba (Makino) Makino
関東北部と東北地方の山地の林内にはえる多年草で、根はひげ状で多数、茎は直立し、高さ30~60cm、細くて硬い。葉は互生し、中葉は大形で長い柄があり、葉身はやや硬く、長さ10~13cm、幅7~13cmで上部が3中裂し、裂片は先の鋭い長楕円形で、へりは浅くまばらな欠刻歯があり、上面はやや無毛で緑色、下面には網脈があって脈上とへりにちぢれた短毛がある。上葉はしだいに小形となり、柄もなくなる。8~10月ごろ茎の上部で分枝し、円すい状に白色の頭花を着ける。頭花はただ1個の管状花からなり、花冠は5裂し、裂片は線形である。総苞は狭い筒形で長さ14~17mm、そう果は長さ1cmたらずで上方に細毛があり、上端に多数の冠毛がある。〔日本名〕御槍ハグマで、細くて直線的な頭花を、槍の穂にみたてたもの。



(偶蹄目うし科)

2137. かもしか [希少種]
Capricornis crispus (TEMMINCK)
頭明1300mm、肩高665mm、尾90mmぐらゐ。歯式: 0033/3133=32。本州南部産は普通黒茶色、本州中部では灰茶色、そして岩手・宮城・福島県下のものほとんど灰白色で、背の正中線に黒毛を混生している。ときに淡赤褐色のものが出るこれを var. *pryerianus* Heude と呼ぶ。雄の角は細く鋭く、雌のは太く鈍い。カモシカは本州・四国・九州の山岳地方に特有の高山獣で、亜種は台湾にタイワンカモシカ *swinhoei* Gray がいる。この種は高山の常緑針葉樹帯から草本帯の間や岩山に孤独ですみ、人の特殊の行動、例えば赤布を振るとか、踊りとかを遠望したり、犬に追上げられても、しばしば岩上に佇立し、前肢だけを動かす。草食性であるが、樹葉も食べる。4~6月に一産1子を分娩する。この牛科の珍獣は世界的のものとしてわが国の貴重な天然記念物である。〔黒田長禮〕

北陸館「牧野・日本植物図鑑」
北陸館「日本動物図鑑」
北陸館「日本昆虫図鑑」

尚綱学入門

登場する動植物

- (標準和名) (学名 Scientific name)
- | | | | |
|--------------|--|----------------|--|
| 1.カタクリ | <i>Erythronium japonicum</i> | 39.フデリンドウ | <i>Gentiana zollingeri</i> |
| 2.カスミザクラ | <i>Prunus verecunda</i> | 40.ラショウモン | <i>Meehania urticifolia</i> |
| 3.ウワミズザクラ | <i>Padus grayana</i> | カズラ | |
| 4.イカリソウ | <i>Epimedium grandiflorum</i>
<i>var. thunbergianum</i> | 41.ヤマグワ | <i>Morus australis</i> |
| 5.ハウチワカエデ | <i>Acer japonicum</i> | 42.ミツバアケビ | <i>Akebia trifoliata</i> |
| 6.ショウジョウバカマ | <i>Heloniopsis orientalis</i> | 43.ミヤマガマズミ | <i>Viburnum wrightii</i> |
| 7.エンレイソウ | <i>Trillium smallii</i> | 44.ヤマウルシ | <i>Toxicodendron</i>
<i>trichocarpum</i> |
| 8.ミヤマエンレイソウ | <i>Trillium tschonoskii</i> | 45.エゴノキ | <i>Styrax japonica</i> |
| (希少種) | | 46.キムネクマバチ | <i>Xylocopa appendiculata</i>
<i>circumvolans</i> |
| 9.チゴユリ | <i>Disporum smilacinum</i> | 47.オオスズメバ | <i>Vespa mandarinia</i> |
| 10.ワニグチソウ | <i>Polygonatum involucratum</i> | 48.ニホンマムシ | <i>Gloydus blomhoffii</i> |
| 11.ナルコユリ | <i>Polygonatum falcatum</i> | 49.クマノミズキ | <i>Swida macrophylla</i> |
| 12.ヒトリシズカ | <i>Chloranthus japonicus</i> | 50.ホオノキ | <i>Magnolia obovata</i> |
| 13.フタリシズカ | <i>Chloranthus serratus</i> | 51.ミンミンゼミ | <i>Hyalessa maculaticollis</i> |
| 14.トウゴクミツバ | <i>Rhododendron wadanum</i> | 52.エサキモンキツノ | <i>Sastragala esakii</i> |
| ツツジ (外来種) | | カメムシ | |
| 15.ブタナ (外来種) | <i>Hypochaeris radicata</i> | 53.アカキンスジ | <i>Poecilocoris lewisi</i> |
| 16.セイヨウタンポポ | <i>Taraxacum officinale</i> | カメムシ | |
| (外来種) | | 54.エゾアオカメムシ | <i>Palomena angulosa</i> |
| 17.エゾタンポポ | <i>Taraxacum hondoense</i> | 55.ウンモンズメガ | <i>Callambulyx</i>
<i>tatarinovii gabyae</i> |
| 18.ムラサキシキブ | <i>Callicarpa japonica</i> | 56.メスグロヒョウモン | <i>Damora sagana</i> |
| 19.マムシグサ | <i>Arisaema serratum</i> | 57.オオムラサキ (国蝶) | <i>Sasakia charonda</i> |
| 20.ヤマジノホトトギス | <i>Tricyrtis macropoda</i> | 58.ゴマダラチョウ | <i>Hestina persimilis japonica</i> |
| 21.ジャノヒゲ | <i>Ophiopogon japonicus</i> | 59.スミナガシ | <i>Dichorragia nesimachus</i> |
| 22.ネジバナ | <i>Spiranthes sinensis</i>
<i>var. amoena</i> | 60.ウラギンシジミ | <i>Curetis acuta paracuta</i> |
| 23.カラスノエンドウ | <i>Vicia sativa</i> | 61.アカタテハ | <i>Vanessa indica</i> |
| 24.カスマグサ | <i>Vicia tetrasperma</i> | 62.ルリタテハ | <i>Kaniska canace</i> |
| 25.スズメノエンドウ | <i>Vicia hirsuta</i> | 63.オナガアゲハ | <i>Papilio macilentus</i> |
| 26.ホタルブクロ | <i>Campanula punctata</i>
<i>var. hondoensis</i> | 64.モンキアゲハ | <i>Papilio helenus</i> |
| 27.オヤリハグマ | <i>Pertya triloba</i> | 65.カラスアゲハ | <i>Papilio bianor</i> |
| (希少種) | | 66.オニヤンマ | <i>Anotogaster sieboldii</i> |
| 28.オヤマボクチ | <i>Synurus pungens</i> | 67.ヒダリマキマイマイ | <i>Euhadra quaesita</i> |
| 29.センダイトウヒレン | <i>Saussurea nipponica</i>
<i>var. sendaica</i> | 68.ツバメ | <i>Hirundo rustica</i> |
| 30.ジャノメチョウ | <i>Minois dryas</i> | 69.メジロ | <i>Zosterops japonicus</i> |
| 31.ギンリョウソウ | <i>Monotropastrum humile</i> | 70.コゲラ | <i>Dendrocopos kizuki</i> |
| 32.ベニタケ sp. | <i>Russula sp.</i> | 71.カワラヒワ | <i>Carduelis sinica</i> |
| 33.ツチグリ sp. | <i>Astraeus sp.</i> | 72.ミヤマクワガタ | <i>Lucanus</i>
<i>maculifemoratus</i> |
| 34.オカトラノオ | <i>Lysimachia clethroides</i> | 73.トウホクノウサギ | <i>Lepus brachyurus</i>
<i>angustidens</i> |
| 35.オニドコロ | <i>Dioscorea tokoro</i> | 74.ニホンカモンカ | <i>Capricornis crispus</i> |
| 36.カワラナデシコ | <i>Dianthus superbus</i>
<i>var. longicalycinus</i> | 75.ツキノワグマ | <i>Ursus thibetanus</i> |
| 37.オニグルミ | <i>Juglans mandshurica</i>
<i>var. sachalinensis</i> | 76.ハクビシン | <i>Paguma larvata</i> |
| 38.ホタルカズラ | <i>Lithospermum zollingeri</i> | 77.ホンドタヌキ | <i>Nyctereutes</i>
<i>procyonoides</i> |